

日本：貿易統計（16年2月）

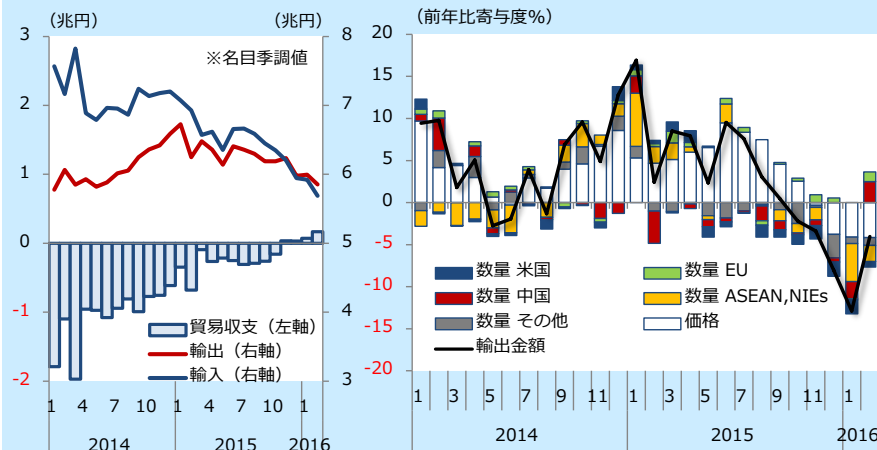
— 原油安により貿易収支の改善続くも、輸出は依然低迷 —

MRI Daily Economic Points

March 17, 2016

貿易収支

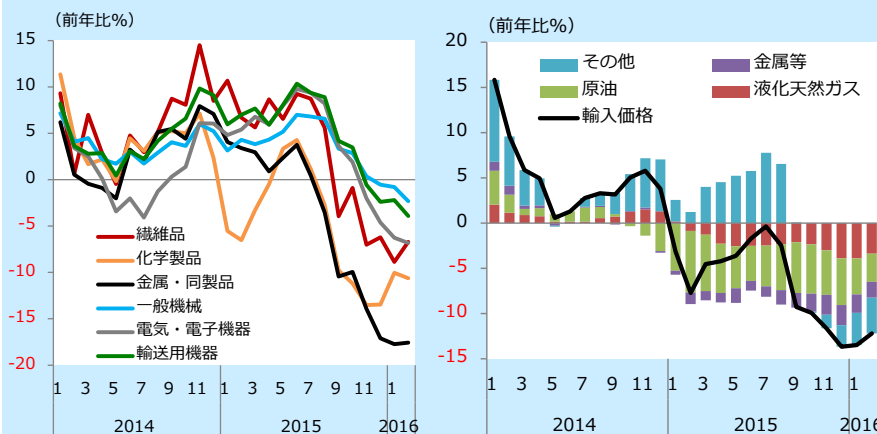
輸出額の寄与度分解



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

品目別輸出価格

輸入価格



資料：財務省「貿易統計」日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

16年2月の結果

- 16年2月の貿易統計は、輸出が前年比▲4.0%と5ヶ月連続で減少。輸入は同▲14.2%と14ヶ月連続の減少。貿易収支は2,428億円と前年の赤字(▲4,260億円)から黒字に転じた。季調値では+1,661億円と4ヶ月連続の黒字となり前月(+732億円)から黒字幅が拡大。
- 輸出数量は前年比+0.2%と8ヶ月ぶりにプラスに転じた(前月は同▲9.1%)。アジア各国で春節が昨年より早まったことで(2月下旬→2月上旬)、1月には日本からの輸出が抑えられ、2月にはその反動で押し上げられる影響が出た。1-2月の輸出数量を均せば同▲4.5%と引き続き減少している。
- 米国向けは、自動車輸出は引き続き堅調だが、設備投資の減少などを背景に一般機械の輸出が低迷しており、輸出数量は10ヶ月連続で前年を下回った。一方、欧州向けは、自動車や電気機器の輸出が回復傾向にあり、輸出数量が同+10.2%と増加している。
- 輸出価格は同▲4.2%と4ヶ月連続で低下。国際的な資源価格の低迷などを背景に、金属や化学製品を中心に低下している影響が大きい。
- 輸入は大幅な減少が続いている。国内需要の弱さによる輸入数量の減少(同▲2.3%)に加え、資源安などにより輸入価格が同▲12.2%と大幅に下落している影響が大きい。

基調判断と今後の流れ

- アジア向けを中心に輸出は低調に推移している。先行きは、米国の成長持続と欧州の緩やかな回復がプラス材料となるものの、中国や資源国の減速が重石となり、輸出全体としては緩慢なペースでの回復にとどまるであろう。
- 世界金融市場は引き続き不安定な状況にある。原油安の恩恵が大きいはずの先進国経済にも株安やマインドの悪化を通じて影を落とし始めている。米国の先行き懸念の強まりや新興国での強い信用収縮が、非資源国も含めた成長下振れを招き、日本の輸出が一段と下振れるリスクには注意が必要。